

道東太平洋沖の流速場 (2017年12月 海況速報No.179 付記)

2017/12/20
中央水産試験場 海洋環境G、釧路水産試験場、函館水産試験場

釧路水産試験場所属試験調査船「北辰丸」による、流れの調査結果をお知らせします。(水温観測結果は「北辰丸」および、函館水産試験場所属「金星丸」の結果を使用しています。)

親潮： 現在、道東太平洋沖の100m深水温は、沖の観測点の一部を除き、ほとんどが5℃以上となっており親潮水（100m深5℃以下）の影響は見られません（図2）。12月は一年で最も親潮面積が縮小する季節であり（※）、親潮の本流は千島列島付近まで後退し、観測海域までは到達していないと考えられます。

暖水： 根室沖から襟裳岬にかけて岸に沿う西～南向きの流れ（W1：20～40cm/s程度（100m深流速））が見られます（図1）。その場所での100m深水温は5～7℃程度で親潮水（100m深5℃以下）に比べるとやや高めです。津軽海峡から流出した津軽暖流は、青森県側の岸に沿って南下しています（TW1）。

今後の見通し： 親潮の面積は、例年ならばこの後冬から春にかけて一気に増大しますが、現時点では春以降の親潮勢力は不透明な状況です。春以降の見通しについては次回（2月）観測以降の結果を元に、お知らせします。

※参考気象庁HP：http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/db/kaikyo/oyashio/oyashio_area.html

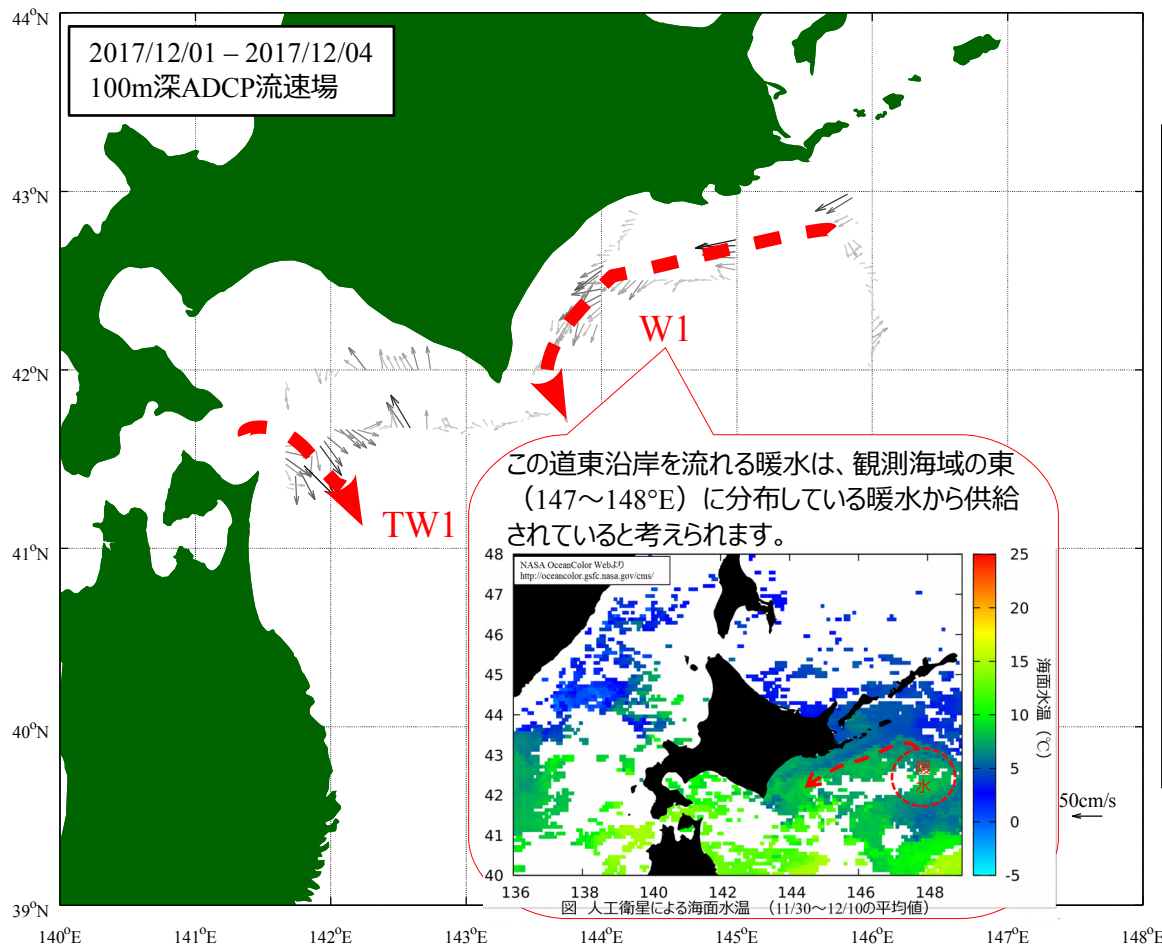


図1 ADCPによる100m深の流速場と模式図。実線矢印は向きでその場所の流向を、長さや色の濃淡が流速を表す。点線矢印は推定された暖水（赤）の流れの模式図（親潮は見られない）

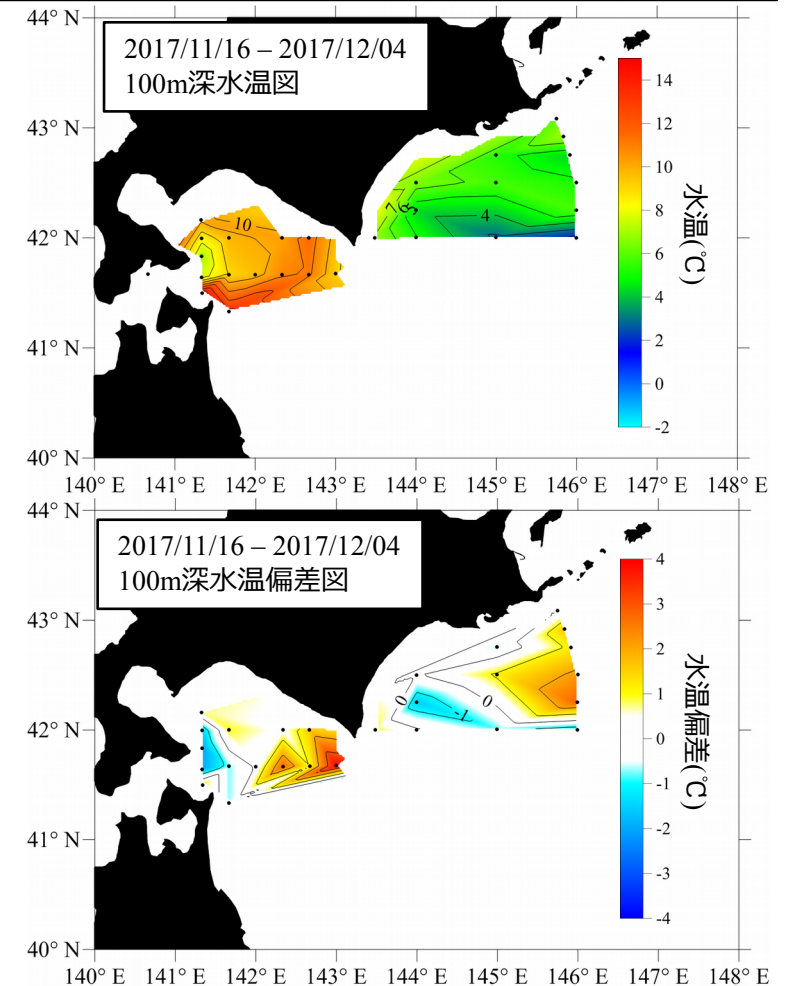


図2 (上) 100m深水温図
(下) 100m深水温偏差図 (1989～2008年平均からの差)